

令和5年度 建設部門 技術士合格体験記

NTTインフラネット株式会社
水谷 淳様



“私を本気にさせてくれて、論文のテクニックを授けてくれた”

技術士を目指す皆様に3つの申し上げたきことがございます。

1. 技術士受験は若いうちに

技術士試験は難関と言われますが、難しいというより**準備が大変な試験**です。論文試験に対応するには、国の施策を把握し自分の言葉で述べることと、自らの経験に基づいた考えを書き加えることが必要です。ここで言う経験とは、業務から得るものが全てではなく、文献を読んで得た知識も経験と言えると思います。そう考えると、若い方でも十分に通用するものであり、むしろ記憶力が高い若いの方が有利とも言えます。現に私は、30歳のときに上下水道部門を受験し、その時の準備時間は500時間程度、そして50歳になって建設部門の受験に要した時間は1000時間程度（前年の12月から面接までの1年間）となりました。いくつもの論文をまとめ上げて覚え込む勉強法は、50歳の自分にはきつかったです。しかし**時間をかければなんとかなるということでもあるので、ベテランの皆さんも諦めないで下さい。**

2. 講座受講の勧め

受講を勧める理由が三つあります。

①計画的に準備が進められる

4月から6月にかけて座学が組まれています。例えば4月に必須問題の座学があるとすれば、それまでに対象の演習問題を全て回答し添削を受けておくようにします。そうすると座学の内容が理解しやすく、不明点の質問もできます。5月に最終の座学がありますので、それまでに演習問題は全て完成しておきます。そして6月の模擬試験は本番のつもりで受験します。残り一ヶ月はさらなる守備範囲の拡大に費やすことができます。

②論文のテクニックが身につく

私は講座を受けたことにより論文の構成が大きく変わりました。受講するまでは課題と解決策の挙げ方もよくわかっていなかったことに

づきました。論文のテクニックは、何回も添削を受けることで身につくものだと思います。

③手書きの訓練

当講座では、添削を依頼するには手書き原稿の提出が求められます。私は再提出を含めると30回以上書いてきました。当時は時間の無駄ではないのかと考えていましたが、今思えばあれが良かったのだと思います。本番はもちろん手書きですので、書き慣れることが大切で漢字の学習にもなりました。独学ではそこまで手書きを実施することはないと思います。

3. 心構え

受かることだけを考えて挑んでほしいです。「受かったらいいな」とか「落ちるかもしれない」ではだめです。「絶対に合格する!」という強い思いが必要です。職場や家族、友人にも合格すると宣言して下さい。食う・寝る・仕事以外の時間は全て準備に費やす必要があり、そのためには強い思いを持たないといけないのです。

◎終わりに

私の体験談は2部門目の合格ですが、参考にならないと思わないで下さい。私は建設部門の筆記試験は4回不合格となっております。言い訳をさせていただけるなら本気度の違いということになりますが、**今回私を本気にさせてくれて、論文のテクニックを授けてくれたのは当講座です。受講していなければ合格していなかったと思います。**

また、私は模擬面接は受講していませんが、それは会社のフォローがあったためです。会社のフォローがない場合は受講を強く勧めます。面接試験は言うまでもなく緊張します。模擬面接を受けていれば本番の緊張はかなり軽減します。面接は9割合格すると言われてますが、落ちたら筆記試験のやり直しです。面接は慣れることと質問のポイントを押さえることが重要です。**やれることは全てやって挑んで下さい。**